

学力・学習
状況調査を
踏まえた改善

授業ファイブの充実を支える指導の視点（1）

小学
校版

今年度の学力・学習状況調査の結果から、「めあてが示されている」「振り返る活動を行っている」「自分の考えを発表する機会が与えられている」等に成果が見られ、授業ファイブを意識した授業が各学校で展開されていることがわかります。しかし、「話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、自分の考えを伝えること」や「複数の資料の内容を関連付けて理解したり、表現したりすること」に課題が見られました。今後の授業改善においては授業ファイブの「②自分で考え表現する時間を確保する」過程の充実が必要であると考えます。

「②自分で考え表現する時間を確保する」場面の充実のために〈その1〉

「生徒指導の3機能」を踏まえた教師の日々の指導

「生徒指導の3機能」は、『生徒指導提要』に次のように示されています。

生徒指導は、(中略) 自己指導力の育成を目指すものです。そのために、日々の教育活動においては、

- ① 児童生徒に**自己存在感**を与えること
- ② **共感的な人間関係**を育成すること
- ③ **自己決定の場**を与え自己の可能性の開発を援助すること



の3つに特に留意することが求められています。

話し合い活動を充実させるためには、自分の考えをもち、共感的な人間関係の中で、それを安心して表現できる雰囲気づくりがまず必要です。日々の教育活動では、次のような指導が考えられます。

■友達の発表をしっかりと聞かせる

(話す児童の方に体を向かせたり、クラスメイトの発表した内容とつなげて発表させたりする。等)

■つまづきや誤答がみんなのためになったことを評価する

(「意見を言ってくれたおかげで話し合いが充実した。」
「新しい視点から話し合えた。」のようにしっかりと賞賛する。等)

■小グループでの話し合い活動を設定する

(教科指導や特別活動等で、3人グループで話し合う機会を増やし、全員に発言させる。等)

■振り返りで友だちのよかったところを認め、賞賛する

(授業や帰りの会などの振り返りで、自らの姿とともに頑張っていた友だちの姿にも目を向けさせる。等)

H30.7月発行の「あなたの学校へズームインNO.13 加茂小授業研究会の様子」も参考にしてください!

